

「令和6年度問題行動・不登校等諸課題に関する調査結果」について

1 要 旨

「令和6年度問題行動・不登校等諸課題に関する調査」は令和6年度末に実施され、今年10月末に結果が報道されました。今回、全国の状況及び静岡市の状況と課題、今後の取組について、①暴力行為②いじめ③長期欠席（不登校）について報告します。

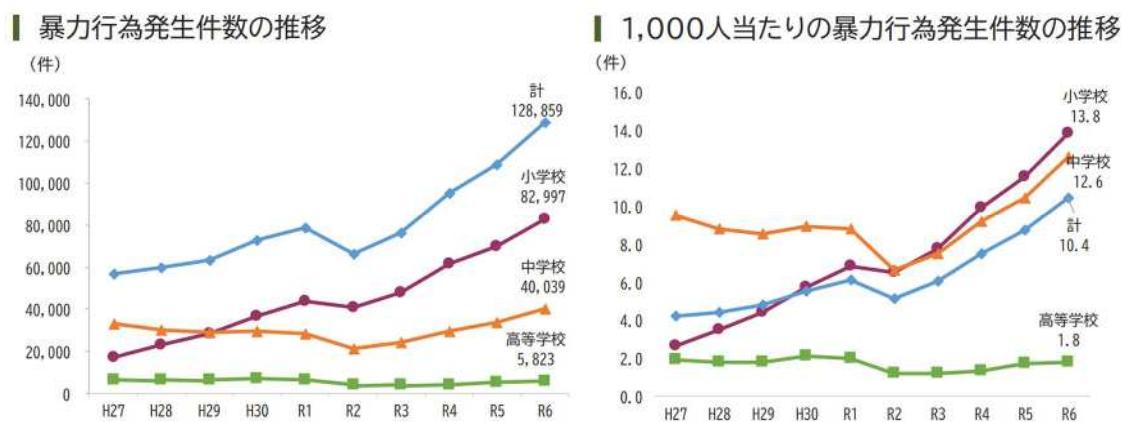
2 令和6年度問題行動・不登校等諸課題に関する調査について

「問題行動・不登校等諸課題に関する調査」とは、文部科学省が全国の国・公・私立の小・中・高等学校等を対象に、毎年実施している統計調査です。日本の学校教育における「生徒指導上の課題」の現状を把握する最も基本的なデータとして、教育政策の策定や予算措置の根拠として活用されています。調査される主な項目は、暴力行為、いじめ、長期欠席（不登校）、中途退学、自殺などについてです。

3 全国の状況について

（1）暴力行為

小・中・高等学校における**暴力行為の発生件数**は、令和5年度の108,987件に対し、令和6年度は128,859件であり、前年度から19,872件（18.2%）増加し、過去最多となりました。児童生徒1,000人当たりの発生件数は令和5年度の8.7件に対し、令和6年度は10.4件で、令和2年度に一旦減少しましたが、その後4年連続増加しています。



（2）いじめ

小・中・高等学校及び特別支援学校における**いじめの認知件数**は、令和5年度の732,568件に対し、令和6年度は769,022件であり、前年度から36,454件（5.0%）増加し、過去最多となりました。児童生徒1,000人当たりの認知件数は、令和5年度の57.9件に対し、令和6年度は61.3件で、令和2年度に一旦減

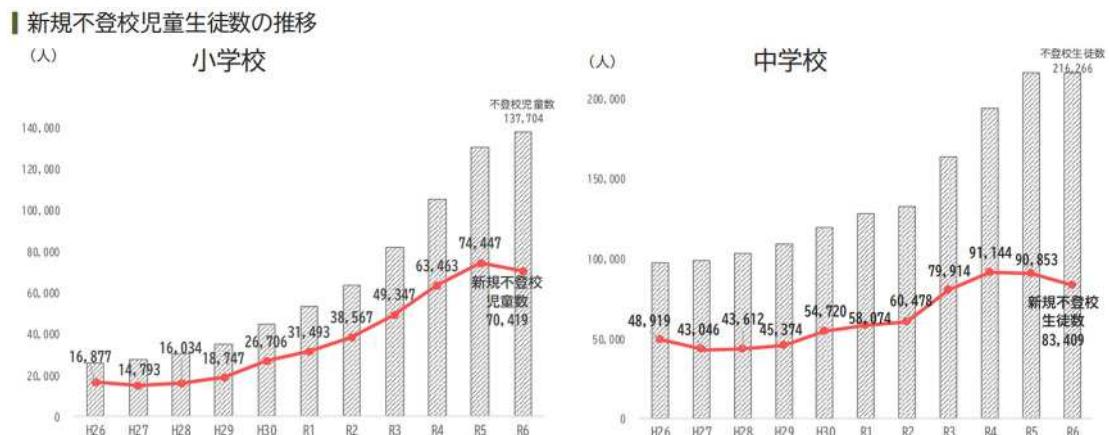
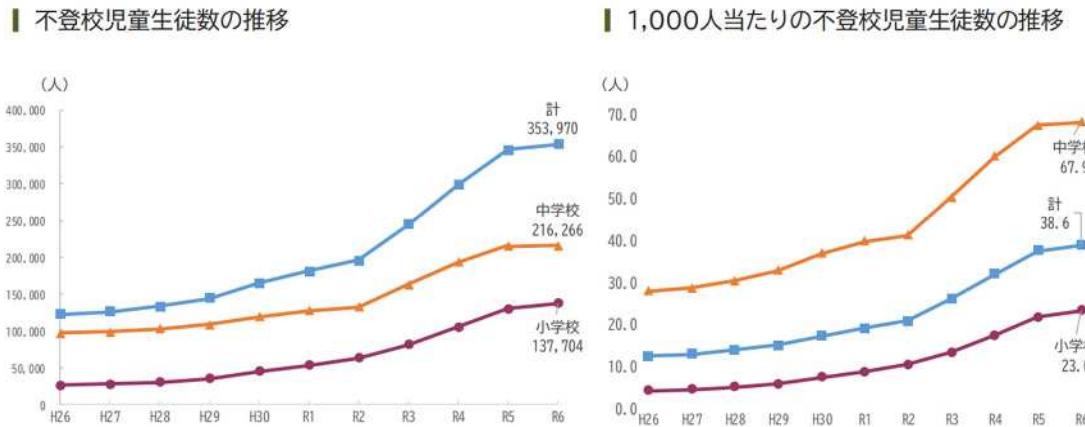
少しましたが、その後4年連続増加しました。いじめの解消率については、令和5年度(77.5%)に比べて令和6年度はやや低下(76.1%)しました。



(3) 長期欠席のうち不登校

不登校児童生徒数は、小・中学校全体で令和5年度の346,482人に対し、令和6年度は353,970人と過去最多となったものの、増加率は小・中学校全体で令和5年度の15.9%に対し、令和6年度は2.2%であり、前年度と比較して低下し、特に中学校の増加率は小さくなりました。また、学年別に見ると、小学校1年生、中学校2年生の不登校児童生徒数は前年度から減少しました。

不登校児童生徒のうち、新規不登校児童生徒は小・中学校ともに減少しました。また、不登校継続率も小・中学校ともに低下しました。不登校児童生徒数全体の増加率は前年度より低下したものの、不登校児童生徒数が減少する水準には至っていないという結果でした。



4 静岡市の状況と課題、今後の取組について

（1）暴力行為

①状況

市立の2高校を含む静岡市立小・中・高等学校における生徒間暴力や器物損壊等の暴力行為の発生件数は、令和5年度の220件に対し、令和6年度は337件であり、前年度から117件（53.2%）増加しました。児童生徒1,000人当たりの発生件数は、令和5年度の4.8件に対し、令和6年度は7.5件で、令和4年度に対し、令和5年度に一旦減少しましたが、令和6年度では大きく増加し、過去5年間で最も多い件数となりました。

全国との比較については、1,000人当たりの発生件数は全国が10.4件であることから、全国よりも低い発生率となっています。

静岡市 暴力行為件数と1,000人当たりの発生件数の推移（件）

	R2	R3	R4	R5	R6
小・中・高	151	194	282	220	337
1,000人当たり	3.1	4.1	6.0	4.8	7.5



②これまでの取組と課題

これまで、自分の思いや考えを言葉や表情で表現したり、他者の思いや考えを受け止めたりする力を育てる教育実践を行ってきましたが、コロナ禍の影響もあり、自分の感情を言葉ではなく、暴力行為等で表してしまう児童生徒が増えていく傾向にあります。

③今後の取組

暴力行為等を未然に防ぐことを目的に、アンガーマネジメント教育やSOSの出し方教育、ソーシャルスキルトレーニング等、セルフコントロールや人間関係作りの能力を高める教育実践に一層力を入れます。

加えて、暴力行為を行う児童生徒の抱える悩みや問題などの背景について、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の心理や福祉の専門家と連携し、チーム学校で指導・支援をする体制を一層強化し、問題行動の早期発見・早期対応を今後も心掛けます。

（2）いじめ

①状況

いじめの認知件数は、令和2年から減少傾向にあり、過去5年間では最も少ない結果となりました。1,000人あたりのいじめの認知件数で見ると、47.2件となっており、全国の61.3件よりも下回りました。

静岡市 いじめの認知件数と1,000人当たりの発生件数の推移（件）

	R2	R3	R4	R5	R6
小・中・高 特別支援学校	2,509	2,392	2,400	2,262	2,123
1,000人当たり	52.2	50.3	51.3	49.3	47.2



②これまでの取組と課題

これまで、学校では、いじめの未然防止・早期発見を推進するため、「いじめの定義」や「学校いじめ対策基本方針」を教職員内で年度ごとに確認し、正しい定義での対応を共有すること、被害者の気持ちを第一に考えた対応や「報告・連絡・相談」体制を徹底すること、教職員一人の判断で「いじめではない」と決めつけることのないような体制を徹底すること等に、力を注いきました。

その効果もあり、いじめの認知件数は減少傾向にありますが、SNS上のいじめなど、見えづらく解消しにくい事案に関しては、増加傾向にあります。

③今後の取組

増加しているSNS上のいじめを未然に防ぐために、警察や、各機関が行っている、SNSの使い方やネットモラルに関する出前授業や講座を、各小中学校の教育活動に位置付け、積極的に活用していきます。

併せて、入学式や授業参観時等、様々な機会で保護者に対しても啓発していきます。

（3）長期欠席のうち不登校

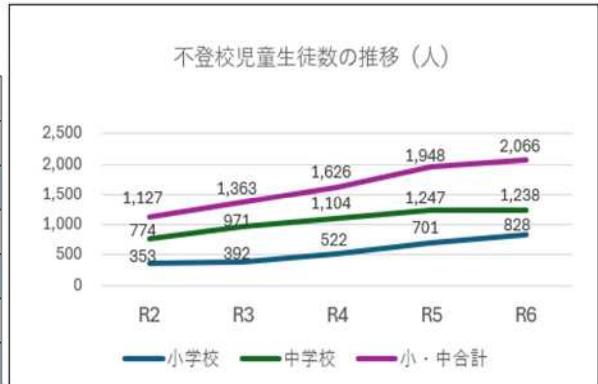
①状況

本市の不登校者数は、小学校では令和5年度701人に対し、令和6年度は828人、中学校では令和5年度1,247人に対し、令和6年度は1,238人、合計は令和5年度1,948人に対し、令和6年度は2,066人でした。小学校では前年度から127人増加（18%増加）し、中学校では9人減少（1%減少）しました。中学校においては3年ぶりに減少に転じましたが、小学校の不登校者数が毎年増加していることで、令和6年度の小中学校の不登校者総数は過去最多の人数となりました。

1,000人あたりの不登校発現者数で見ると、小学校は令和5年度の23.6人に対し、令和6年度は28.6人、中学校は令和5年度も令和6年度も86.0人でした。
小学校、中学校いずれも全国を上回っており、特に中学校の不登校発現率が高くなっています。

静岡市 不登校児童生徒数と1,000人当たりの不登校児童生徒数の推移（人）

	R2	R3	R4	R5	R6
小学校	353	392	522	701	828
1,000人当たり	11.2	12.6	17.1	23.6	28.6
中学校	774	971	1,104	1,247	1,238
1,000人当たり	53.1	66.1	75.8	86.0	86.0
小・中合計	1,127	1,363	1,626	1,948	2,066
1,000人当たり	24.4	29.8	36.1	44.1	47.7



②これまでの取組と課題

これまで、学校では、不登校を未然に防ぐ取組として、教育相談体制の充実や学級や学校の心理的安全性を高める取り組み、一斉教授型の授業だけではなくICTを活用した個別最適な学びやグループ学習を通じ、学習の遅れによる不安解消等、様々な取組を行っています。

また、不登校になっている児童生徒への支援として、教職員の家庭訪問等に加え、リモートでの授業環境を整えることや、サポートルーム等の別室での個別対応、静岡県教育委員会が主管する不登校児童生徒向けのバーチャルスクールを活用した支援等を行っています。

一方、児童生徒が不登校になる背景には、心理的・身体的なものから社会的なものまで複雑に絡み合っている現状や、起立性調節障害などの医療的な理由で長期欠席している児童生徒について、教職員の理解が不十分な現状があります。それらを踏まえ、不登校になっている児童生徒に対し、個別の柔軟な対応をさらに広めていく必要性があります。

③今後の取組

遅刻が増えてきているなど、不登校になる兆しがある児童生徒に対し、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも連携し、その背景を心理的・社会的に見立て、チーム体制で対応をより一層進めます。

また、起立性調節障害など、医療的な理由から長期欠席している児童生徒に対しては、その症状について教職員が理解を深めるとともに、医療・保護者と連携しながら適切に対応していきます。

加えて、静岡市には校外で生活及び学習に係る相談及び指導等を行う「静岡市教育支援センター」として、葵区にはふれあい教室、駿河区にはかがやく教室、清水区にははばたく教室が設置されていますが、これらの教室の機能をより一層

高め、不登校児童生徒の支援を充実させることができるように、来年度に向けて整備していきます。

また、不登校生徒の新たな受け入れ先の1つとして、不登校生徒を対象とした「学びの多様化学校」を「末広中学校分教室※」として令和8年度に開校し、柔軟なカリキュラム等の実践事例を静岡市立の中学校に共有を図るなど、新たな取組を行っていきます。

※末広中学校分教室への入学・転入学の申請状況については、別紙をご確認ください。

静岡市では、これらの調査結果や分析を踏まえ、これからも、子どもたちが安心・安全に学校生活が送れるよう、問題行動や不登校の未然防止・早期発見・早期対応に努めていきます。

担当：教育局 児童生徒支援課（054-354-2533）

別紙**学びの多様化学校「静岡市立未広中学校分教室」入学・転入学の申請状況について****1 要 旨**

不登校児童生徒に対し、その実態に配慮して特別に編成された教育課程に基づく教育を行う、学びの多様化学校「静岡市立未広中学校分教室」の2026年4月開校に向けた準備を進めています。

11月17日（月）から12月5日（金）まで申請を受け付け、52名の入学希望者の方から申請がありました。今後、入学者検討委員会で2026年度の入学・転入学者を決定します。

2 入学申請者数

学年	申請者数
小学6年生（2026年4月時点で中学1年）	31
中学1年生（2026年4月時点で中学2年）	7
中学2年生（2026年4月時点で中学3年）	14
合計	52

3 入学予定者の決定について**（1）入学予定者の決定方法**

静岡市教育委員会内に設置される入学者検討委員会において、以下要件と学びの多様化学校への適性について検討

（2）入学・転入学の要件

- ① 2026年4月1日時点で市内在住の中学1～3年生であること
- ② 不登校状態である、または不登校の傾向がみられること
- ③ 学びの多様化学校の特徴を理解したうえで未広中分教室に入学し、登校して学ぶことを本人・保護者ともに希望していること

（3）要件についての確認方法

- ア 児童生徒及びその保護者から提出された申請書の内容
- イ 学校から提出された副申書
- ウ 入学者面談

※ 入学者の面談は12月13日（土）同20日（土）に実施済み

（4）入学予定者への通知

2026年1月上旬に保護者へ通知予定

担当：学校教育課（054-354-2522）